

【運命は開かれる】

2月10日に荒修行を成満して、12日には真成寺で皆様に帰山式の御祈禱をさせてもらったものの、それ以来ズーツと、ながい全国巡業をして参りました。が、その巡業もようやく終了して、先月のお彼岸前に真成寺へ無事に帰ってくる事が出来ました。

改めまして、「皆様！まだまだこの若輩者の私を今後も厳しい目で、御指導の程を宜しく願います」。

さて、積もる話も多々ありますが私は修行中ですね、「これだけ混乱を極めている現代、天災もある、犯罪も増加する一方。世の中を平和にするには、一体どうすればいいのか？」という事を、悩み考え、仏様にお尋ねする日々がありました。そして、現代の世の中に対して感じたことがあります。というのも、近代の日本人は、かつて生活の中から編み出された数々の叡智を古くさいという理由で排除し、便利さを追うあまり、なくてはならぬ多くのものを失ってしまいました。倫理や道徳そして、宗教といったこともその1つに挙げられるでしょう。

「平和」という字は「平らに和む」

と書きますが、その定義の最初に挙げられるのが、やはり「挨拶」でしょう。挨拶すればお互いに和み合って仲良くなります。この「挨拶」を別の言い方で表現すれば「心を開く」と言えます。

よう。だから、ただ単に気持ちも入っていない「挨拶」をしていたのでは、何の意味もありません。自分のホントの「真摯な気持ちを開いて、相手に差し出す」という事が何よりも大切ですよ。親子でも兄弟でも、朝起きたら「おはようございます」と挨拶できなければダメですね。これは人間としての原点です。

考えてみると、人間だけです、挨拶が出来るのは。だったらその人間の特権を使わなければ嘘ですよ。

「おはようございます・すみません・ありがとうございます・おかげさまで」云々。人間は言葉という大変有り難い、意志の疎通が出来る道具を授かりました。

現代社会には物が溢れてしまい、それが原因で、孤独な人間を多く生み出す結果になってしまったのではないかと思います。やはり人間は1人では何も出来ません。家族や仲間がいれば勇気も出るし、励まし合える。可能性を知ることでもできる。明日が見えて、生きようという思いや、夢の実現に対する意欲が、次第に強くなっていきます。

人間って人と触れ合って楽しいと思ったり、優しくされたり褒められたり、感動したりした時に、気持ちが温かくなったり嬉しくなったりします。その様な人との触れ合いの中で、可能性やひらめきが生まれて、自然と運命が開かれていくものなのでしょうね。

「人間」とは「人の間」と書きます。「人と人の間」には一体何があるのでしょうか？何か、必要不可欠なモノがありそうですよね？

私が思うにおそらくそれは、お互いに尊敬し合い、そして「感謝」し合えるという気持ちではないでしょうか？そして感謝の気持ちを知る為には、自らの体験を通じて自覚する以外にないのです。

例えば分り易く言うならば、水が冷たいのも、火が熱いというのも、どんなに頭をひねって考えても分かるはずがありません。

「冷たい」・「熱い」を自覚する為には、自ら水に手を入れる、あるいは火に触れる、それ以外に自覚する方法はありませんよね？体感して初めて経験値として、自分の財産となります。

ですから、苦しい体験を経験すれば、経験する人ほど、幸せな気持ち、感謝の気持ちを、強く持つ事が出来るというものです。逆に、辛く苦しい体験をしていないと、本当に深く感謝をする

ことも、有り難いと思うことも出来ません。

親御さんに、何でもかんでもやってもらうばかりで成人を迎えた子供達と自分で考え、行動してきた子供達とは人間的に、雲泥の差がついてしまっています。その人間的な差というのは、現代人が忘れてきている、倫理や道徳、そして宗教といった、人間として基本的に持つていなければいけない当たり前の感情の事です。

この当たり前とも思える感情を、現代の私達は忘れかけている現実が、犯罪の増加に繋がっている事も危惧できません。

『平和への道』大切なのは、悟りや真実を遠くに求めて、現実逃避してはいけません。何事でも求める道は、いま自分の所、自分の足下にしかないのです。現実の困難を喜び、将来に素敵な、自分だけの花を咲かせられるように。

これをしたい、こうでありたいという止み難い気持ち。それに突き動かされて少しずつでも準備を進める。そこに訪れる幸運は偶然ではありません。まさに必然である。

人生を、運命を、切り開く答えは、まさに「今、ここ」なのであります。

副住職 谷川 寛敬